



## 子どもの言葉を広げる「対話型読み聞かせ」を学ぼう！

3月3日は、雛祭りでもあります。また、「耳の日」でもあります。  
昭和31年に「難聴と言語障害を持つ人々の悩みを少しでも解決したい」という願いから始まりました。  
今回は、こどもの言葉の発達について「親ができること」を調べてみました。

### 家庭で出来る！言葉の発達を豊かに育む3つのポイント

#### ポイント1:親子の「対話」を増やす

**言葉のシャワー:** 日常生活の中で、子どもの行動や目にするものを言葉で実況中継するように語りかけます。「お着替えしようね、腕をばんざいして」「ブーブーが走っているね、速いね」といった語りかけは、子どもを豊かな言語環境に浸し、言葉と実体験を結びつけます。

**マザリーズ(ペアレンティーズ):** 大人が乳幼児に話しかける際に自然と使う、少し高めの声で、抑揚が大きく、ゆっくりとした話し方です。これは単なる「赤ちゃん言葉」ではなく、赤ちゃんの注意を引きつけ、言葉の音の区切りなどを学習しやすくする効果が科学的に証明されています。

#### ポイント2:「対話型読み聞かせ」

##### 対話型読み聞かせの3ステップ

- ①質問する: 絵を指さして、「ワンワンはどこにいるかな?」「これは何色かな?」など、子どもが答えやすい質問をします。
- ②広げる: 子どもの答えを繰り返してから、情報を付け加えます。「そうだね、ワンワンだね。大きな茶色いワンワンだね。」
- ③結びつける: 物語の内容を子どもの実体験と結びつけます。「この前、公園で見たワンワンと同じだね。楽しかったね。」



#### ポイント3:メディアとの上手な付き合い方

- ①2歳未満は、なるべくスクリーンタイムを避ける
- ②2歳以上でも1日30分程度に
- ③できれば視聴ではなく、一緒に見て対話しながら活用する

乳幼児の脳は、応答のある生身の人間との対話の中で言葉を学んでいきます。テレビや動画からの一方的な情報は、この大切なプロセスを代替することはできないそうです。

### 言葉の発達を安心して見守る



読み聞かせも所説あり、集中して聞いている子どもさんには、本をそのまま読み終えてから質問をはじめてもいいと思います。

子どもの言語発達は、一人ひとり異なり、決められた地図通りに進むわけではありません。

最も大切なのは、日々の生活の中で、お子さんの小さなサインに応え、対話し、おかげさぐらい?愛情を伝えることです。

そして、もし「少し遅いかな?」と心配になった時は、決して一人で抱え込まず、乳幼児健診をはじめ、親子を支えるための公的サポートシステムを利用しましょう。専門家と連携することは、お子さんの可能性を最大限に引き出すための、そして何より保護者自身の安心のための、賢明な選択だと思えます。

参照: Japanesu Health 小児科「子どもの言葉の発達のすべて」